

暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして
みんなが



たんぼぼだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員控室室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぼぼだよりブログ

http://kurodemich.exblog.jp



黒豆の声

セミの音が響く
こどもが駆けて行く
ラジオ体操かなあ・・・
同じ空の下

爆撃の音が響く
こどもが死んでいく
白い煙を何本も残して白リン弾が
落ちる
同じ空の下

空爆の音が響く
イスラエル軍はアメリカから
提供された兵器で
逃げ場のないパレスチナ自治区
ガザを攻撃する

安倍さんはアメリカから
オスプレイ17機を
通常価格の3倍以上
1700億円でお買い上げ
合計1兆5000億円で兵器を
買ってあげるんだって・・・

秘密保護法運用基準素案
「なにが秘密か」を決めるのは
行政機関の長
「奪取等の恐れ」がある場合は
廃棄だって・・・
「30年以上秘密」は内閣が決める
「60年以上秘密」にするものも
現実にあった事がなかった事に
されようとしている・・・

同じ空の下
「経済より国民の命こそ大事!!」
胸がすく、大飯原発差し止め訴訟の
福井地裁判決

同じ空の下
あなたは何をしますか・・・

私は「憲法活かせ!」
人間をかえせ!と声をあげる

暑い暑い夏の日がやって来た
こども達の歓声と共に



給食・食材の放射能測定を要求 小さい子どもほど影響大きい

6月議会報告の続きで 答弁は、従来と同じ「国・す。たんぼぼだより141号で 県、市町の役割分担を踏まえは、全国的に広がりを見せ 連携、対応を検討していく」ている「住宅リフォーム助 というものでした。しかし、成制度の創設」について、 近隣の市町では、ほぼ給食・質問し、市から「ふるさと 食材の放射能測定をすでに 団地の再生や市外からの転 実施していること。この間、入の促進、子育て世帯への 隣接する地域で汚染土壌や 助成など、幅広い政策目的 汚染食材が見つかったり 備えた助成制度にしてい こと、農林水産省が汚染腐葉 きたい」という前向きな答 土・堆肥の流通を400ペクレ 弁があったことを報告しま ルまで許容していることな した。また、「子育てなら川 などを伝え測定の必要性を訴 西で」と評価されるよう、 えました。

近隣市より低い合計特殊出 実際、長岡京市の給食で食 生率の向上、子育て施設の 前に行われた放射能検査で 地域間格差を是正すること 茨城県産ワカサギから26べ などの具体的政策提言を行っ クレルが検出され、給食から ました。(ぜひ、議会HPか 外されるということも起こ ら映像配信ご覧ください) っています。大人の体は60

今号では、「兵庫県が発表 兆個の細胞で構成されてい した放射性物質の拡散シミ ますが、赤ちゃんの細胞は ユレーション結果への対応 20兆個。未発達なこども達 と市内の放射能データを収 の安全・安心はもとより、保 集しておくこと、給食・食 護者にも安心してもらえら 材の放射能測定を実施する よう、引き続き給食・食材の 放射能測定を要求して います。

もっともっ がんばり ましょう!!



「戦争やめろ!」「人殺し反対」の輪・・・

最終、署名は51筆、戦争賛成シール2 反対シール31でした。

「撤回」の声

「解雇改憲」にNO!
畦野でシール投票

政府が「日本国憲法は集団的自衛 権を認めている」という、これまで と180度異なる憲法解釈を7月1日 「閣議決定」したことに対し、13日 の畦野駅前で、「みなさん、どう思わ れますか」という、シール投票と署 名を行いました。

今にも降りそうな空の下、人通りは少ない けれど、これ、僕知ってる。テレビでやって たわ」と署名をしてくれる少年。友達と一緒に 「戦争 反対」にシールを貼ってくれる中 学生達。「戦争は絶対に嫌やね」と署名、シール を貼ってくくださるお買い物の方、「安倍首相 は大丈夫っていうから大丈夫でしょ」と 通り過ぎる人も。「署名して良いですか」と制服姿の小学生。「自衛隊員も憲法九条があるから安心して活動出来たんだよね」と言うときくうなずいてくれる。

川西市の政務活動費 1円から領収書 (議会ホームページで公開中)

世界中に流された元兵庫県議会議員の醜態。元川西市職員だったこともあって、市民の方からの問い合せや怒りの声が届けられています。政務活動費は、議員が市民の願いを実現するための調査、活動費。川西市では、議員一人年額72万円を上限に、1円から領収書を添付し、使わなかった金額は返金するというシステムになっています。私達日本共産党議員団は、大切な税金なので、当初から「1円から領収書を添付し、活動費の内容は公開し、説明責任を果たすこと」を提案し続けてきました。

川西市では、平成21(2009)年度から議会HP上で会派ごとの「活動報告」「出納簿」とも、全面公開になっています。もちろん領収書も全て公開の対象です。

今回世間を騒がせている「特例の交通費」については、川西市では、旅費規程の用紙に「線名、駅名、金額、目的地」など全て記入することになっています。また、切手も「何をどこへ出したか」を領収書添付用紙に記載することになっています。

以上の議会改革のほかに、私達議員団は「議会報」の冊子化と、その中で一般質問者の名前や質問項目の掲載、賛否が割れた議案や請願の議員名の公表、行政視察の報告の掲載などの情報提供などを求め、今年3月の議会からはじまっています。(本会議場での一般質問など映像配信中です)

私(黒田)は2期目から議員団幹事長として議会運営委員会にたずさわっていますが、市民の目線で「おかしいことはおかしい」といい続け、一步一步改革されてきたと思います。

安倍政権打倒の国民的大運動を

日本共産党創立92周年記念講演会

日本共産党は創立92周年を迎えた15日、東京都新宿区の日本青年館で記念講演会を開きました。志位和夫委員長が「亡国の政治」と決別し、未来に責任を負う新しい政治を」と題して講演。日本と国民に災いをもたらしている安倍政権の「亡国の政治」を、集団的自衛権、専らと経済、原発、米軍基地の四つの問題から浮き彫りに、「安倍政権は、歴代自民党政権の中でも、戦後最悪の反動政権だといわなければなりません。このような内閣は一日続けば、その分だけ、日本と国民に災いをもたらすことは明らかです。安倍政権打倒の国民的大運動を起そうではありませんか」と呼びかけました。

「亡国の政治」と決別し、未来に責任を負う新しい政治を



志位氏は、安倍政権が強行した集団的自衛権行使容認の「閣議決定」について①米国のグローバルな戦略に乗っかって、自衛隊が「戦闘地域」まで行き軍事支援を行う②「自衛の措置」の名目で集団的自衛権行使容認に公然と踏み込み、海外での武力行使に乗り出す③「二つの道で」「海外で戦争する国」への道を推し進めるものになっていると述べ、国民に事の真相を語り、ウソとゴマカシに終始する安倍首相の言い訳が通用しないことを痛烈に批判しました。

12月8日の太平洋戦争開戦の「詔書」を示し、無制限な海外での戦争を「国の存立」「自衛の措置」の名で推し進めるのは、かつて日本軍国主義が「帝国の存立」「自存自衛」の名で侵略戦争を進めた軌跡を繰り返すものであり、「断じて許すわけにはいきません」と力を込めました。

本が憲法9条とともに築いてきた国際的信頼、第三は、日本社会の人権と民主主義です。志位氏は「それにしても何のために安倍首相はこんなでもない暴走をしていくのか」と問いかけ、その根底には日米軍事同盟の侵略的強化という日米支配勢力の思惑があるが、「それだけでは説明がつかない」と指摘。「安倍首相の異常な性急な、乱暴の根本には安倍首相自身の反動的野望がある」と告発。

いま日本政治は、戦争か平和かをめぐって、戦後最大の歴史的岐路を迎えています。志位氏が「このたまたかの最終的な帰趨を決めるのは国民の世論と運動です」と語り、「海外で戦争する国」への許すな、解党で憲法を壊すな—この一

点で、空前の国民的反撃のたたかいを起こし、安倍政権の軍国主義復活の野望を打ち砕くために、ともに力を合わせまいしよ」と呼びかけると、「そうだ」の声と大きな拍手がわきおこりました。

志位氏は、いま何よりも大切なことは、道理にたった外交交渉による解決、平和的解決に徹する憲法9条の精神に立った外交戦略を確立することだを強調。

「平和の公明」説明できぬ

「集団的自衛権の行使は憲法違反」という憲法解釈は、長年にわたって、立法府も行政府も共有してきたものです。ある日突然、安倍首相が「私が解釈を変える」と言っても、国民が納得しないのは当然です。

改憲したいなら憲法にしたがって、国会が発議し、国民投票にかけるべきです。そんなことをしていたら時間がかかる、というなら、それは「反対多数」を承知の上で、裏口でやってみよう、という最悪の方法ですね。私がいた公明党は「平和の党」と言ってきました。でも今回、「政策の違いで政権離脱はしない」と言った瞬間に、解釈改憲をしたい自民党との勝負は終わった。いま「歯止めをかけた」などと支持者を説得しているけど、まったく説明になっていません。

私は、憲法9条は時代を先取りしていると思います。互いに軍事同盟を結んで「相手をたたきつづけ」という19世紀、20世紀前半の時代から、国連中心に押しやり引いたり交渉して戦争にしないで解決するのが今の時代です。日本は、戦争に負けても恨まず、9条で二度と戦争はしませんと宣言して、実践している国です。世界の模範、日本の誇りだと思っています。

政治革新の道しるべ、真実つたえ希望はこぼ

しんぶん 赤旗

日刊 3497円
月刊 823円

お申し込みは 黒田みちまで (TEL&FAX 790-3055)



連立優先、密室協議重ね協力 公明党「戦争の党」へ

「平和の党」どころか「戦争の党」だ。本紙に寄せられた怒りの声です。

太田昭宏国交相（公明党）も署名した海外での武力行使容認の閣議決定。公明党は文豪つくりで自民党と密室協議を重ねてきました。その姿は、国民を欺きながら「戦争の党」に成り下がったことを示しています。

昨年夏の参院選で公明党は、集団的自衛権行使に「断固反対」国民の理解を得られない限り変えてはならない（山口那津男代表）と公約。2012年総選挙アンケート（毎日）でも、集団的自衛権行使への解釈改憲に候補者の87%が「反対」でした。

それが一転。安倍晋三首相と自民党に全面屈服したのが、政権与党の地位にしがみつく党利党略からです。山口代表は「月24日、自民党側との協議がまとまらなくても、自民党は到底考えられない」と述べ、与党協議の入り口から連立優先の姿勢を示しました。

そもそも、集団的自衛権行使を禁じた1972年の政府見解の「法理」の部分を用いて解釈改憲の理屈づけにするよう提案したのは、公明党の北側一雄副代表でした。

しかも、自民党の高村正彦副総裁（与党協議座長）が刻まれた歴史を越えた公明党。「戦争」

長が提示した武力行使「新3要件」の文案では、他国への武力攻撃によらずに日本国民の生命や人権、幸福追求権などが覆される「おそれ」がある場合という表現に難色をみせたものの、やはり何の限定もない「明白な危険」と書き換えただけで妥協。公明党執行部は「歯止めがかけられた。拡大解釈の恐れはない」と党内の慎重論を抑え込み、「執行部一任」を取り付けて与党合意に持ち込んだのです。

安倍暴走の「ブレーキ」役と国民をだましながら、憲法破壊という一線を越えた公明党。「戦争」を越えた公明党。「戦争」

二見伸明さん

元公明党副委員長 元運輸大臣

ことをしていたら時間がかかる、というなら、それは「反対多数」を承知の上で、裏口でやってみよう、という最悪の方法ですね。私がいた公明党は「平和の党」と言ってきました。でも今回、「政策の違いで政権離脱はしない」と言った瞬間に、解釈改憲をしたい自民党との勝負は終わった。いま「歯止めをかけた」などと支持者を説得しているけど、まったく説明になっていません。